

綾部市自主防災組織等ネットワーク会議事例発表

タイムラインの作成の取組

大島町西自治会長 太田 淳

令和7年5月9日（金）

大島町西の概要（その1）

- ▶ 綾部市南西部で東は大島町中、大島町東等、西は高津町に接する
- ▶ 北は由良川により豊里地区と隣接し、南は山地
- ▶ ほどよく商業地と住宅地が混じっている、田舎とまちなかを両方楽しめる綾部の縮図のようなエリア
- ▶ 市道高津旭線（広域農道）、JR山陰本線（高津駅）、府道福知山綾部線が東西に貫通



大島町西の概要（その2）

- ▶ 世帯数 1 6 5 世帯（自治会資料） 組数 9 組
- ▶ 人口 4 9 4 人
うち 7 0 歳以上人口 1 0 8 人（高齢化率21.9%）

（※令和 7 年 3 月 3 1 日現在）

- ▶ 避難行動要支援者名簿登載者数 1 5 人

コミュニティタイムライン作成に取り組んだきっかけ

- ▶ 自分たちの地域（特に大島町西）に潜む災害リスク等を具体的に確認したい。
- ▶ 避難の参考となる情報をの入手の仕方等を学びたい。
- ▶ ハザードマップの見方と避難の仕方について学びたい。
- ▶ 避難所の指定はされているが、どこに避難すればよいのかわからない。
- ▶ 自主防災規約はあるが、いざという時に迅速に落ち着いて行動ができるかわからない。
- ▶ 避難が必要と思われる人は年々増えている（高齢化による独居や高齢者世帯の増加）
- ▶ 自助・共助が必要であるが、平常時から地域住民が安心して暮らせるルールづくりが必要であるため。

マイタイムライン講習会とコミュニティタイムライン作成に係るワークショップの概要

◆第1回 お天気キャスターと作る「マイ・タイムライン」講習会

実施時期 令和7年1月19日（日） 午前9時30分～午前11時30分 参加者34人

◆第2回 地域の災害リスクを知る マイ防災マップの作成

実施時期 令和7年2月23日（日） 午前9時30分～午前11時30分 参加者29人

◆第3回 地域で支えあう約束を考える ～コミュニティタイムラインの作成～

実施時期 令和7年3月16日（日） 午前9時30分～午前11時30分 参加者28人

▶ 主な参加者（1回45人に参加要請）

自治会四役、相談役、当年度組長、次年度組長、民生委員・児童委員、各分館部長・副部長、女性部員、防災対策推進委員など

まとめ・・・

■取り組みの成果

- ・「いつ」「誰が」「何を」するのかを取りまとめた行動計画を作成したことで、地域で行うべき行動を整理し、共有することができ、先を見越した早めの行動が可能となった。
- ・また、作成を通じて住民対象のワークショップが行われたことにより、地域の防災上の課題やその解決策について話し合うことができ、防災に対する意識向上が図られ、情報を理解する必要性を実感

■今後に向けて

※今後も継続した検討や話し合いを続け、常に改善による最適なルールづくりが必要

- ・情報を伝える方法（電話だけでなく、LINE等の他の手段を考える）
- ・組長から住民へ連絡する方法（効率よく確実に情報を伝えられる方法も考える）
- ・備蓄品の充実（発電機、車いす、布団、緊急用トイレ等）
- ・要支援者への具体的な支援方法（だれが、どのように避難を支援するか 等）
- ・要支援者の情報の集約・更新方法（要支援者の状態・意向・更新間隔 等）
- ・要支援者の情報の管理・共有方法

地域住民の「つながり」を大切にしていくこと

研修会の様子



コミュニティタイムラインの成果品

綾部市大島町西自治会コミュニティタイムライン

作成日：2025年3月16日

この「綾部市大島町西自治会コミュニティタイムライン」は、台風等により災害が発生するまでに「いつ」「だれが」「なにを」するかをまとめた事前防災行動計画です。
家族やみなさん自身の命を守るため、「綾部市大島町西自治会コミュニティタイムライン」を参考に「マイ・タイムライン」を作成するなど、事前にどのような行動をとるか考えておきましょう。

防災対応の参考にする情報		自主防災組織（自主防）							地域住民					
災害発生までの時間（目安）と現象例	避難判断の参考情報 避難スイッチ	綾部市	中筋地区 自治会連合会	自治会長	副自治会長 総務部長 財務部長 （四役）	組長代表	民生児童委員	組長	文化部 体育部 社会厚生部	住民				
【数日前】 気象状況悪化のおそれ 台風が発生し日本に近づく （警戒レベル1）	早期注意情報 台風予報			防災気象情報の確認										
				四役へ予定の確認	→自治会長へ予定を伝達					持ち出し品・備蓄品の準備（自宅避難：上層に備蓄品を移動）				
										避難先の確認				
【1～2日前】 気象状況の悪化 台風が近づき雨や風がだんだん強くなる （警戒レベル2）	氾濫注意情報 大雨注意報 洪水注意報			自主避難所（ききょうの郷）へ避難する可能性の連絡						飛散物の固定、排水路の掃除・点検				
										上層に貴重品の移動				
										親戚・知人宅やホテル・旅館等への避難				
				避難状況の把握	←		自治会長へ避難状況の連絡	←自治会長へ避難状況の連絡	←	民生児童委員又は組長へ避難完了の連絡（この段階で避難した場合）				
【半日～数時間前】 災害発生のおそれ強くなる 雨や風がさらに強くなる 川の水がだんだん増えてくる （暴風警報） （警戒レベル3）	氾濫警戒情報 大雨警報 洪水警報 高齢者等避難 （暴風警報）	災害警戒本部設置	中筋地区 災害警戒本部設置	河川水位情報、土砂災害情報の確認										
		高齢者等避難発令		四役・組長へ高齢者等避難発令の連絡	→	高齢者等避難発令の確認	→	高齢者等避難発令の確認	→	住民（要支援者）へ高齢者等避難発令の連絡	→	高齢者等避難発令の確認		
		指定緊急避難場所（大島町小字会堂・中筋小学校・ふれあいセンター）開設		四役へ大島町西公会堂に災害対策本部設置の連絡	→	大島町西公会堂に参集（必要に応じて）				→	大島町西公会堂に参集（必要に応じて）			
				四役・組長へ避難所開設の連絡	→	自主防各担当へ避難所開設の連絡	→	避難所開設の確認	→	避難所開設の確認	→	住民（要支援者）へ避難所開設の連絡	→	避難所開設の確認
													住民の自主避難	
				要支援者の避難指示	要支援者の避難指示	要支援者の避難指示	要支援者の確認・避難支援の準備	要支援者の確認・避難支援の準備	要支援者の確認・避難支援の準備	要支援者の確認・避難支援の準備	要支援者の確認・避難支援の準備	要支援者の確認・避難支援の準備		
							要支援者へ避難の声かけ	要支援者へ避難の声かけ	要支援者へ避難の声かけ	要支援者へ避難の声かけ	要支援者へ避難の声かけ	要支援者へ避難の声かけ		
							要支援者の避難支援	要支援者の避難支援	要支援者の避難支援	要支援者の避難支援	要支援者の避難支援	要支援者の避難支援		
				避難状況の把握	←連合会へ避難状況の連絡	←	避難状況の把握	←	自治会長へ避難状況の連絡	←自治会長へ避難状況の連絡	←	民生児童委員又は組長へ避難完了の連絡（この段階で避難した場合）		
				被害状況の把握	←連合会へ被害状況の連絡	←	被害状況の把握	←	自治会長へ被害状況の連絡	←自治会長へ被害状況の連絡	←	組長へ被害状況の連絡		
【数時間前】 災害発生のおそれ高い 台風が近づき雨や風が非常に強くなる 川の水があふれそうになる 道路が冠水する （警戒レベル4）	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 避難指示	災害対策本部設置			民生児童委員と組長へ避難指示発令の連絡	→		→	住民へ避難指示発令の連絡	→	→	避難指示発令の確認		
		避難指示発令											住民の避難	
					避難支援者の退避	避難支援者の退避	避難支援者の退避	避難支援者の退避	避難支援者の退避	避難支援者の退避	避難支援者の退避	避難支援者の退避		
				避難状況の把握	←連合会へ避難状況の連絡	←	避難状況の把握	←	自治会長へ避難状況の連絡	←自治会長へ避難状況の連絡	←	民生児童委員又は組長へ避難完了の連絡		
				被害状況の把握	←連合会へ被害状況の連絡	←	被害状況の把握	←	自治会長へ被害状況の連絡	←自治会長へ被害状況の連絡	←	組長へ被害状況の連絡		
				土砂災害発生の可能性が高まった場合は大島町西公会堂から他避難場所へ移動										
				自治会長の退避	副自治会長・総務部長・財務部長の退避	組長の退避	民生児童委員の退避	組長の退避	文化部・体育部・社会厚生部の退避					
				避難の完了										
		緊急安全確保発令			民生児童委員と組長へ緊急安全確保発令の連絡	→		→	緊急安全確保発令の確認	→	住民へ緊急安全確保発令の連絡	→	→	緊急安全確保発令の確認
		緊急安全確保		緊急安全確保										
災害発生又は切迫 川の水があふれ堤防が決壊する 土砂災害が発生する （警戒レベル5）	氾濫発生情報 大雨特別警報 緊急安全確保			避難状況の把握	←連合会へ避難状況の連絡	←	避難状況の把握	←	自治会長へ避難状況の連絡	←自治会長へ避難状況の連絡	←	民生児童委員又は組長へ避難完了の連絡		
				被害状況の把握	←連合会へ被害状況の連絡	←	被害状況の把握	←	自治会長へ被害状況の連絡	←自治会長へ被害状況の連絡	←	組長へ被害状況の連絡		
				避難所運営統括	避難所運営	避難所運営	避難所運営	避難所運営支援	避難所運営	避難所運営支援				

※▶ ◀：情報の流れ ◻：情報伝達 青字：今後実施予定

大島町西自治会 水害から命や財産を守る6つの避難ルール

大島町西自治会水害コミュニティタイムラインの作成にあたり、住民対象のワークショップを開催し、地域の防災上の課題とその解決策について話し合い、独自の避難ルールをまとめました。

ルール1	浸水や倒木、土砂崩れ等により、道路が通行できなくなる可能性があるため、 避難の声かけや避難は大雨が降る前に開始しましょう。
ルール2	安全を確保することが困難な公民館や施設は、 避難所としてなるべく使用せず、やむを得ず使う場合は、想定浸水深以上の階や崖から離れた部屋を使う等、リスクを知ったうえで避難しましょう。
ルール3	ペットが原因で逃げ遅れてしまわないよう、 日頃からペットの避難が可能な避難先（避難場所やホテル等）を確認しておきましょう。
ルール4	指定緊急避難場所の収容人数には限りがあるため、 可能な場合※は、自宅での避難を選びましょう。 ※土砂災害のリスクがある地域に自宅がある場合は、自宅での避難は選べません。立退き避難しましょう。 ※浸水想定区域内に自宅がある場合は、自宅が流されるおそれなく、想定最大浸水深以上の居場所があり、十分な備蓄があれば、自宅での避難を選択できます。
ルール5	避難先の駐車場が足りなくなる可能性があるため、 避難は、原則徒歩で、避難先まで遠い場合は地域の方と協力して車で行いましょう。 水害の危険がある地域や避難所は車が水没する可能性があるため、 各家庭で、車を退避させる必要性や退避先について考えておきましょう。 ※水防活動の妨げになるため、堤防天端の道路には駐車しないようにしましょう。
ルール6	避難先の施設には、水や食料等の備蓄品がない、もしくは数が限られているため、 避難するときは非常持ち出し品を持っていきましょう。 ※日頃から3日程度の非常持ち出し品を用意しておきましょう。



各警戒レベルでの状況とみなさんの行動

警戒レベルとは、災害のおそれの高まりに応じ、避難情報等や住民のみなさんがとるべき行動を5段階で整理したものです。警戒レベルと状況、とるべき行動等を確認しておきましょう。

レベル	状況と現象例	どんなことが起るか	みなさんの行動	やることの例
警戒レベル1	気象状況悪化のおそれ 天気予報で「台風が日本に近づく可能性があります」「明後日は大雨になるおそれがあります」等と伝えられる。		災害への心構えを高める 備蓄品を確認する。 いつもより天気予報に注意しながら過ごす。	
警戒レベル2	気象状況悪化 台風が近づき 雨や風がだんだん強くなる。		自らの避難行動を確認 避難先や避難ルートを確認する。 家の周りで飛びそうな物を片付ける。 買い出しに行く。	
警戒レベル3	災害のおそれあり 雨や風がさらに強くなる。 川の水がだんだん増えてくる。		危険な場所から高齢者等は避難 近所に声をかける。 避難に時間のかかる人は避難を開始する。 通動を控える。 避難の準備を進める。	
警戒レベル4	災害のおそれ高い 台風がさらに近づき 雨や風が非常に強くなる。 川の水があふれそうになる。 道路が冠水する。		危険な場所から全員避難 車を高台に移動しておく。 安全な場所へ避難する。 自分の避難先を地域の方に伝える。 家族同士で連絡をとり合う。	
<警戒レベル4までに必ず避難>				
警戒レベル5	災害発生又は切迫 川の水があふれる。 堤防が決壊する。 土砂災害が発生する。		立退き避難はすでに危険な状況 命の危険 直ちに安全確保！ 逃げ遅れた場合は、命を守る行動を！ 上の階に移動する。 近くの頑丈な建物に移動する。 崖から少しでも離れた部屋に移動する。 等	

避難先

表にある「長所・短所」も参考に、事前に多様な避難先を考えておきましょう。実際の避難では、表にある指定避難所だけでなく安全が確保できる避難先を状況に応じ選びましょう。

		長 所	短 所
指定緊急避難場所	大島町西公会堂 ※警戒レベル3で自治会長が開錠	一時避難先として利用しやすい 自宅から近く徒歩で避難できる 建物が堅牢で安心 対策本部設置されるため情報が入手しやすい	山に近く土砂災害のリスクはあり、場合によっては二次避難が必要 アクセス道路が坂道 避難スペースが狭い プライバシーの確保が難しい 駐車場がない トイレが少ない バリアフリーになっていない （玄関に段差、急な階段） 布団含めた備蓄がない 発電機がない 車いすがない
指定緊急避難場所・指定避難所	中筋小学校	2階が広く避難スペースが広い 駐車場がある(20台ぐらい) 防災倉庫があり備蓄がある 幼児用の備蓄も多い ペット同行の避難が可能 （ケージに入れて屋外で）	アクセス道路が狭い 府道が渋滞するおそれがある 避難経路に用水路があり浸水するおそれがある 避難スペースは広いが中筋地区の全員は収容できない 駐車場に入れない可能性がある 体育館が2階にあり、階段を上る必要がある
指定緊急避難場所・指定避難所	ふれあいセンター	2階が広く避難スペースが広い 駐車場がある(20台ぐらい) 防災倉庫があり備蓄がある	アクセス道路が狭い 府道が渋滞するおそれがある 避難に時間がかかる 避難経路に用水路があり浸水するおそれがある 中筋地区の全員は収容できない 多くの大島町東の住民が避難先として利用する
自治会指定の自主避難場所	ききょうの郷 （綾部はなみずき）	浸水のおそれがない 24時間避難可能 7階建てで避難スペースがあり 設備が整っている 高齢者の避難に適している 備蓄、非常食がある ペット同伴の避難が可能 （ケージに入れて同室で） 避難に協力的で安心感がある	アクセス道路が坂道 避難するには府道を通る必要がある 避難経路が浸水するおそれがある 避難するには岡谷川を越える必要がある 避難経路が倒木で通行できなくなる可能性がある 高津町も避難所として使用するため全員は収容できない 徒歩での避難が必要 ※車で避難はしないよう施設より要望あり
その他の避難場所	安全な場所にある 親戚知人宅 ホテル等	災害のおそれ等がなく 安心できる 食事の心配がない	早めに連絡・行動する必要がある

今後に向けて

ワークショップを通じて、様々な困ったこと・心配なこと（課題）があげられました。今後も検討や話し合いを続け、改善を目指しましょう。

- 情報を伝える方法 （電話だけでなく、LINE等、他の手段も考える）
- 組長から住民へ連絡する方法 （効率よく確実に情報を伝えられる方法も考える）
- 備蓄品の拡充 （発電機、車いす、布団、緊急用トイレ等）
- 要支援者への具体的な支援方法 （だれが、どのように避難を手伝うか 等）
- 要支援者の情報の集約・更新方法 （要支援者の状態・意向、更新間隔 等）
- 要支援者の情報の管理・共有方法



広報あやべねっ と記事

水害時の避難行動を考える

国土交通省は1月19日、大島町の大島町西公会堂で「お天気キャスターと作る！マイ・タイムライン講習会」を開催しました。地域住民約40人が参加し、台風の接近が想定される場合のマイ・タイムラインを作成。ハザードマップを使い、気象予報士で流域治水アンバサダーの町田^{あかり}朱理さんの説明を受けながら、台風が発生してから川が氾濫するまでの数日間について各自の避難行動を考えました。

